

【参考】

○北東アジアクルーズの振興についての3ヶ国協力の方向性

今回の北東アジア港湾局長会議において、クルーズの振興を日中韓の3国で行うこととなり、「北東アジアにおけるクルーズ振興についての3ヶ国協力の方向性」について共通認識を得ました。

今後、クルーズ船の誘致などを3国共同で行うとともに、各国の観光、港湾、海事、航空行政のみならず、クルーズ船社、旅行業界などが参加する北東アジアクルーズ協議会（仮称）の設置などに向け、3カ国で協力していくことを確認しました。（提案された行動計画は別紙参照）

また、これに関連して、2007年3月には、マイアミにおいて開催される世界最大規模のクルーズコンベンションに、3国共同で出展することとしております。

○次期共同研究

2007年～2009年の3カ年に以下の共同研究を実施することが合意されました。

（1）緊密な港湾協力の促進

効率的でシームレスかつ低廉なアジアワイドの物流ネットワークを構築し、その便益を実現するために必要な北東アジアにおける国際海上物流ネットワークの促進策や北東アジアにおける“港湾連携”の実現等に向けた調査を行います。

（2）シルテーションと浚渫土管理

河川、河口、沿岸部における粘性堆積物のシルテーションによる港湾の被害状況の調査を行い、シルテーション緩和策の適用性評価を行います。併せて浚渫土の有効利用に関する検討を行い、それらの経験に基づいて提言を行います。

（3）北東アジアにおける台風防災対策

台風時に観測された気圧、風、波浪、潮位などのデータを解析し、台風時の気象や海象を究明します。また、波浪や高潮を計算する数値計算モデルの高精度化を図るとともに、港湾関係者にデータ提供するシステムの改良を行います。

北東アジア港湾局長会議の概要

北東アジア港湾局長会議は、各国の港湾の発展のため、港湾行政全般にわたり広範に意見交換を行うとともに共同研究を実施すること、各国港湾関係者の友好関係の増進等を目的としています。

1995年から1999年までの5年間、韓国政府の港湾担当部局との間で開催していた日韓港湾局長会議を発展的に解消し、2000年より中国を加えた3カ国で開催されてきました。

各国の代表は、日本国土交通省港湾局長、大韓民国海洋水産部港湾局長、及び中華人民共和国交通部水運司長です。

なお、ロシアについては、オブザーバーとして参加しています。